

2013年4月 山本拓也様（寺岡記念病院、情報管理課）

この度は、お忙しい中を往診・訪問診療に同行させて頂き、貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。又、患者様宅では皆様方より、快く受け入れて頂き感謝申し上げます。先生を始め看護師の皆様の常日頃のお人柄によるものと思われま

す。気づき・感想については、不適切な表現又はご不快に思われたならお許し下さい。感じたままを述べさせて頂きました。

○医師様は、床又はソファに座りじっくり腰を落ち着けて傾聴されている姿が印象的でした。それだけで、患者様に信頼を与えている、と感じました。（当院の訪問診察はその医師の患者様だけを週1~2回訪問していました。AMは外来受診、PMは訪問診察で2~4件程訪問し、ベッドサイドに立ったまま5分程で終了します）。

○同行看護師様は、患者様に詳しく細部に渡って一切の質問を問いかけ、医師の代弁をされており、負担を軽減している、と思いました。（当院では、医師が主に問診し、補足を看護師が行っています）。

○車中でのボイスメールと口述の書き取りは、医師が訪問から帰って入力するよりも、リアルタイムであり、忘れずに記録が出来、更に医師の業務が確実に減っている、と感じました。又、書き起こしを行う事務の方の力量は凄い、と思いました。処方箋もその場で記入して、ご家族に渡せるので、かなりの手間が省けると感じました。

○最初に訪問した方で、検査をされていましたが、インフルエンザが陽性であった場合の、感染の媒介にならない対処法はされているのかを、お聞きすれば良かったと思いました。（当訪問診察では、訪問終了時に、持参したウエットティッシュで手拭きを行なっています）。

○余計な事ですが、赤い帽子を被った長髪の方を、最初は一体何者かと思っていたら、ドライバーさんだとはびっくりしました。さすが、都会と思いました。

1. 退院後の介護や在宅療養に不安を持っている方に対して、医療とケアのスムーズな移行と連携
2. 受診が困難な方、在宅で看取りを希望される方への往診・訪問診察の強化
3. 地域で支える為には、空きベッドの確保
4. 支援方針を多職種で検討し情報共有を一元化する為の、情報管理センターの設置
5. 地域医療の人材作りとしての、ケア研究会・地域支援会議の設置

以上の事を進めるには、なんと言っても「理解ある医師の確保」「開業医・勤務医の協力」が重要な鍵を握る、と考えます。